

## 2-3 社会情勢

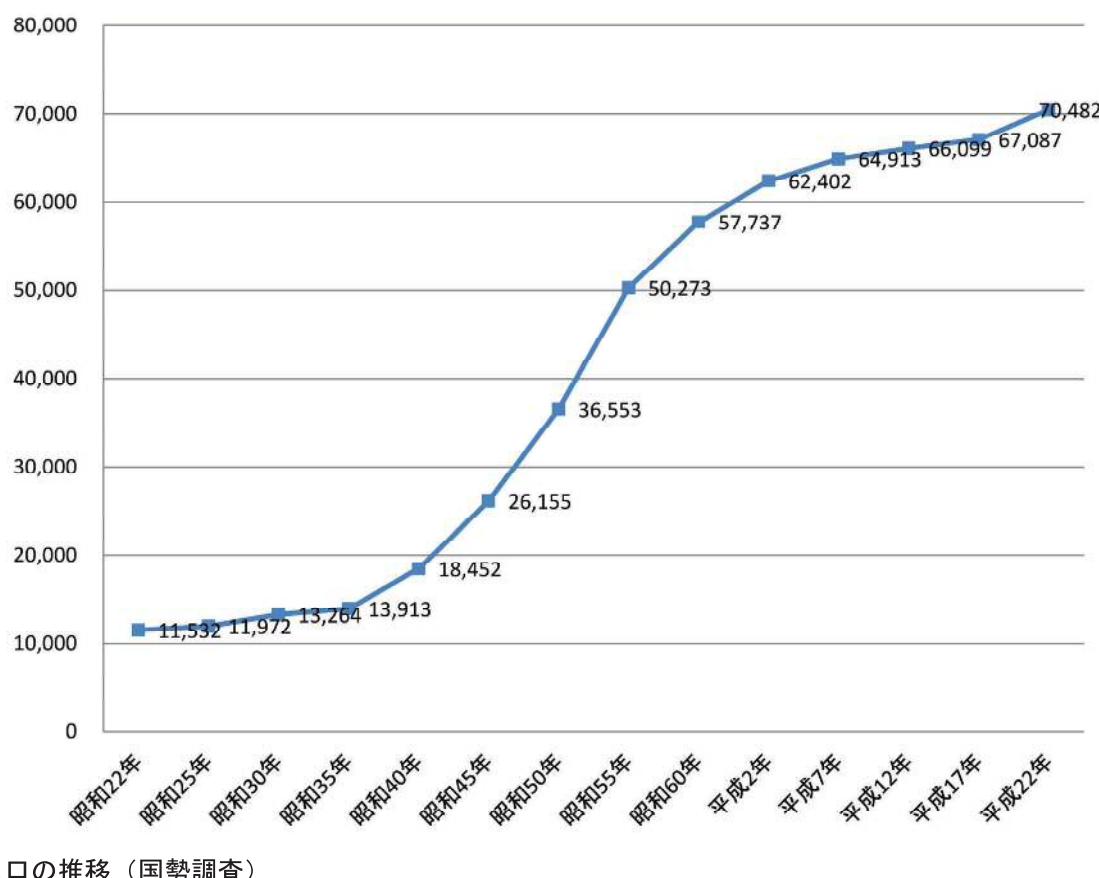
### (1) 人口

本市は、福岡都市圏の住宅都市として、昭和 40 年代から人口増加の一途を辿ってきました。福岡都市圏からの流入が主な要因です。

昭和 40 年代当時の宅地開発に伴う人口の急増期と比較すると、昭和 60 年以降の社会増加数は落ち着きを見せ、平成に入ってからは微増傾向です。平成 22 (2020) 年の国勢調査にみる人口は 70,482 人、世帯数 27,850 戸となっています。

平成 23 (2011) 年 3 月に策定した第 5 次総合計画では、平成 32 (2020) 年の将来目標人口 72,000 人を掲げ、今後とも人口増を目指しています。

一方、65 歳以上の割合は年々増加しています。平成 27 (2015) 年 11 月 1 日現在（住民基本台帳）の高齢化率は 25.7% です。また、15 歳未満の割合が年々低下し、少子高齢化が進行しています。



## (2) 集落

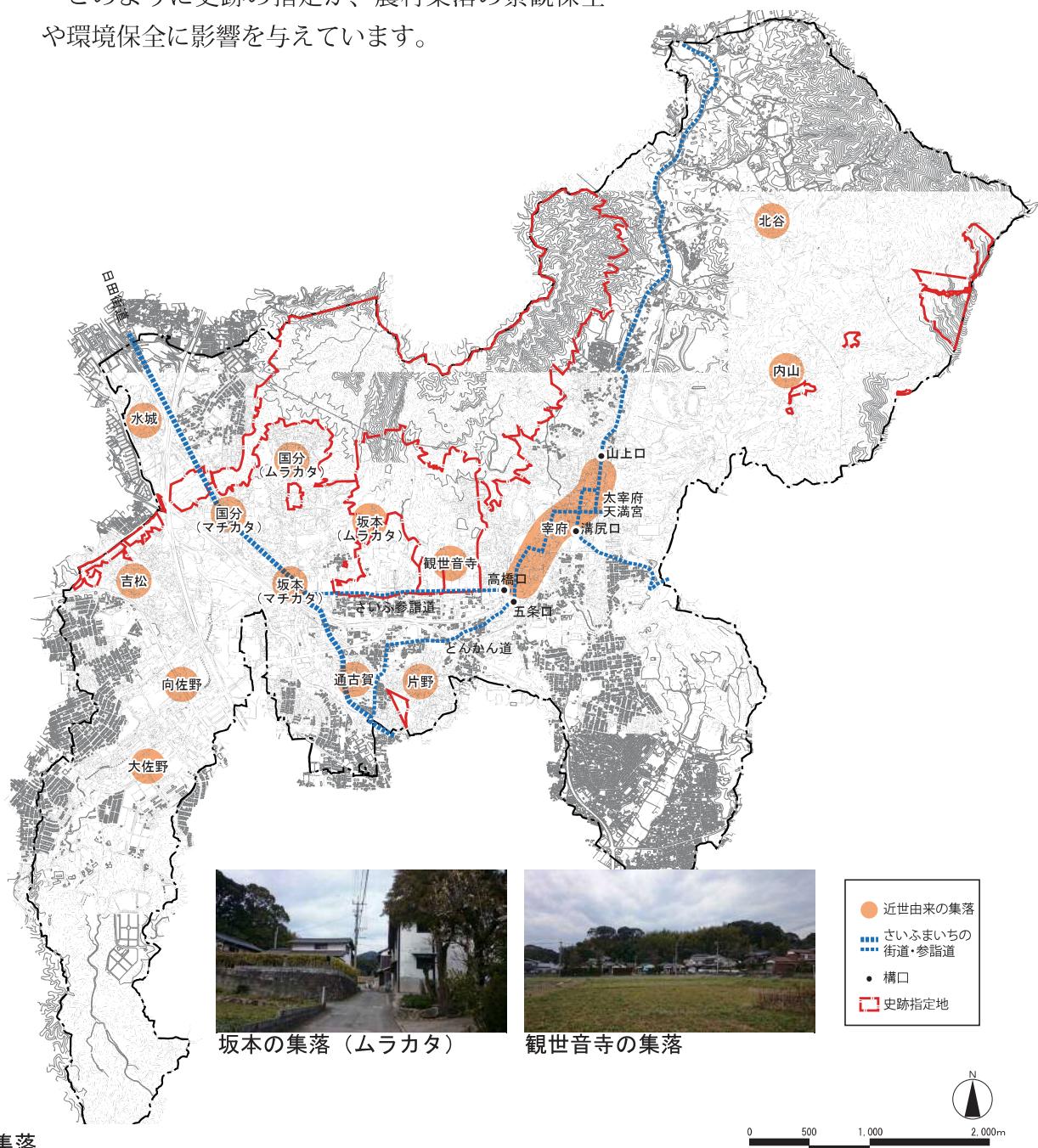
明治時代初めの太宰府は、北谷村、内山村、宰府村、觀世音寺村、片野村、通古賀村、坂本村、水城村、国分村、吉松村、向佐野村、大佐野村の12ヶ村から構成されていました。うち坂本村と国分村は日田街道沿いに形成されたマチカタと山側に位置するムラカタに分かれています。これら村々のまとまりは、人口が急増する昭和40年代以前まで色濃く残り、人々の暮らしがこれら村々の集落を中心に営まれていました。

人口が急増し、市街地化が進展した現在、かつての12ヶ村は市街地の一部となっています。しかし、かつての集落内に入ると、地割の痕跡、神社や伝統的な建造物の存在によって、村の様子をしのぶことができます。

他方、宝満山の麓に位置する北谷村と内山村は、山手に位置したことから都市的開発圧力が及びにくかったこともあり、緑に包まれた集落環境が維持されています。

一方、觀世音寺村、坂本村（ムラカタ）は、史跡指定地内に含まれたことで緑に包まれた集落環境が守られたところです。

このように史跡の指定が、農村集落の景観保全や環境保全に影響を与えています。



### **(3) 宅地開発**

本市は、福岡都市圏に位置し、多くの住宅開発が行われてきたところです。住宅開発の波は、1950年代、国分や通古賀の県営住宅、駅に比較的近い平坦地の開発から始まり、その後四王寺山の麓をはじめ丘陵地へ拡大してきました。

史跡指定地周辺における主な住宅団地としては、国分ヶ丘、観世、国分台、水城台、白川、イートピア、大原、三条台、浦ノ城等が挙げられます。観世団地は、団地の西半分が史跡指定地内に位置しています。全体的に少子高齢化が進行する中で、古い宅地開発地では世代更新が図られず、第一世代だけが残り高い高齢化率を示しているところも出てきています。

### **(4) 産業**

本市の就業構造は、第3次産業への特化が顕著です。

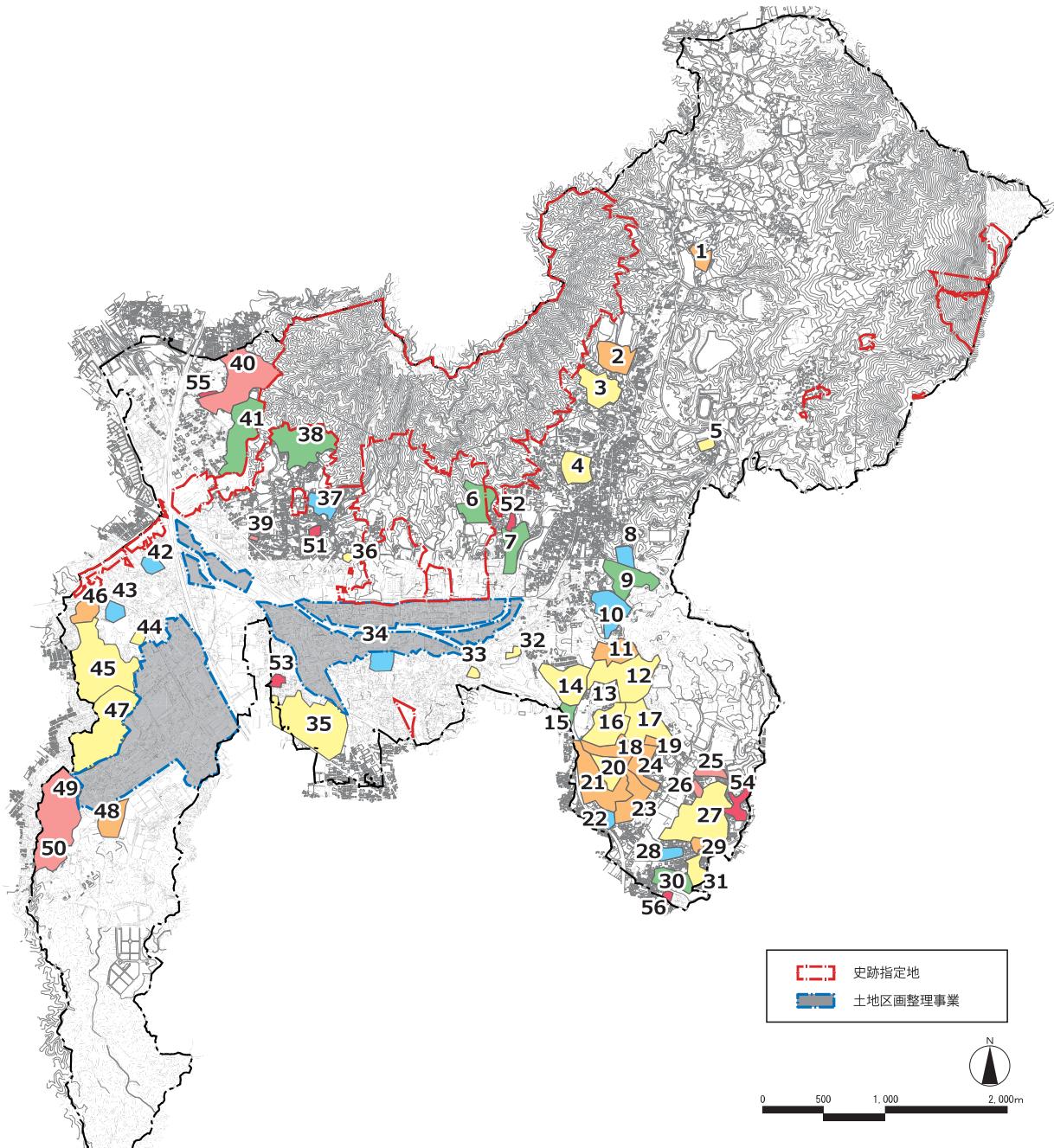
平成22年の国勢調査にみる産業別就業者数は、総数30,286人に対して、第3次産業は23,618人で、78.0%を占めています。対して、第2次産業は4,838人の16.0%、第1次産業（主に農林業）は204人で、0.7%に過ぎません。全就業者に対する第1次産業の占める割合は極めて低く、農村的色彩はかなり弱まっています。

### **(5) 観光**

本市の観光客数は、年間約821万人（平成26（2014）年度）です。東アジアを中心に海外から訪れる観光客も増えています。

本市を訪れる観光客の動きとしては、従来、太宰府天満宮一極集中型でした。しかし、近年では、水城跡や大宰府跡にも大型の観光バス等が寄りつくことが増えたこと、レンタサイクルを利用する観光客が増えたこと等もあり、史跡指定地を訪れる観光客も増えています。近年市内に観光バスが著しく増えていることで、平日でも大宰府跡から太宰府天満宮へ向かう主要地方道筑紫野太宰府線（通称：政庁通り／P22参照）が渋滞しています。

外国からの観光客が増えたことも含め、今後は観光にも対応する史跡整備も求められています。



時期	団地名	番号
'67年以前	湯ノ谷北	8
'67年以前	湯ノ谷西	10
'67年以前	梅ヶ丘	22
'67年以前	光ヶ丘	28
'67年以前	榎寺住宅	34
'67年以前	国分ヶ丘	37
'67年以前	国鉄住宅	42
'67年以前	篠振	43
'62年	白川	7
'65年	湯ノ谷南	9
'68年	観世	6
'68年	(高松不動産)	15
'68年	国税局	30
'68年	国分台	38
'69年	水城台	41
'70年	ニュー菅谷	5
'70年	五条	14
'70年	日本労働者住宅	31
'70年	都府楼	35

時期	団地名	番号
'71年	梅香苑1期	20
'71年	長浦台	47
'71年	三条台	3
'72年	東ヶ丘	12
'72年	星ヶ丘1期	16
'72年	青葉台第1期	45
'72年	スコーレ西日本	13
'72年	高雄台	27
'73年	浦ノ城	4
'74年	スコーレ西日本	36
'74年	星ヶ丘2期	17
'74年	(徳永開発)	33
'74年	スコーレ吉松	44
'74年	(日綿実業)	32
'75年	大宰府ハイツ	11
'75年	大原	2
'75年	梅香苑2期	21
'76年	大佐野	48
'76年	長崎ヤカルトハウジング	24

時期	団地名	番号
'76年	泉ヶ丘	23
'77年	星ヶ丘3期	18
'77年	万葉台	1
'78年	星ヶ丘4期	19
'79年	青葉台第2期	46
'79年	高雄ハイツ	29
'80年	泰栄開発	39
'82年	イトーピア	40
'82年	共同施工区画整理	50
'82年	(竹下住宅)	25
'88年	共同施工区画整理	49
'93年	(竹下住宅)	26
'95年	ロフティ都府楼ガーデンシティ	51
'97年	(九州八重洲興業)	52
'04年	アプローズ	53
'07年	(西日本トラスト)	54
'13年	(マキテック)	55
'15年	Fガーデンハイツ太宰府	56

## ◆大規模宅地開発の動向